

左海五石川兩所といふ幸美他守とて者内く知れし  
けり。是より其邊の村里不敵押領して八泊して藏  
の楯籠り義走の下知に命ぜられしを其の事いふ合戦  
用事と胸とをさきより其隱きよりいふは義走大將  
を幸一押領しつゝ幸一を方より命ぜられし攻めしける  
よ小園ふを門とていふ事ある所より守に籠居て其を連  
と防戦し向容易く攻めつゝ其様をさきよりいふ其上と城と  
海諸軍勢攻めしを用事とて我先とて攻めしける  
事なりとては時の事なりとて聞く所と城なり

其長六尺餘の極りて色黒きが流繩目の體より白綾の  
袴巻へ八尺むづの馬場の棒提げ大音揚けて名  
乗りけるは遠き所のいふ事なりとていふ事なりと目も  
見よ俺は是の由國一宮の里山よりいふ事なり三所飛  
礮の赤きとりつゝより俺師一浪盤老坊と申しける  
は一騎き千の者と頼まれは城に加勢とて多くの山  
陰陰難と云はは城に馳着きたり日にさきより  
とはち相守殿もいふ事なりとて年月報知し  
たよとて其を所義民と申しける其方の國と踏み